行政の窓

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査（令和3年6月実施分）

1. **調査対象**　　道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m³以上の製材工場及び合板工場（対象工場数：102）
2. **調査実施時期**　令和3年6月
3. **調査の内容**　　（原料在庫状況）前年同時期と比べた認識について選択式（「多い」「少ない」「変わらない」）で調査
　　（製品の荷動き）前年同時期と比べた認識について選択式（「良い」　「悪い」　「変わらない」）で調査
4. **企業判断指数の算出方法**
　［(回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%))－(回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%))］
　（最大値：100／最小値：−100）
5. **調査結果（回答工場数：79社　／　回答率：77.5%）**

【①原料在庫状況（トドマツ）】

企業判断指数　　（**太字**は調査時点の現状認識、*斜体文字*は見通し）

調査時点	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3	2021.4-6	2021.7-9	2021.10-12
R2.9	**29**	*11*	*8*	-	-	-
R2.12	-	**-5**	*-2*	*-10*	-	-
R3.3	-	-	**-40**	*-40*	*-37*	-
R3.6	-	-	-	**-47**	*-56*	*-51*

原木在荷量（「林産工場動態調査」より）※月平均　　(m3)

	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3	2021.4-6	2021.7-9	2021.10-12
当年	195,021	148,160	140,118	-	-	-
(前年)	177,410	152,805	193,380	204,586	195,021	148,160
対前年比	110%	97%	72%	-	-	-

（概況）
ｳｯﾄﾞｼｮｯｸの影響により道産木材需要急増に伴い原木在荷量は減少。7月以降も前年を大きく下回る見通し

（回答企業の主なコメント）
道産木材需要急増で原木不足／価格上昇／公売に期待／近場で集まらず／造材事業者減少で伐採少量／道外移出の状況で変わる／素材生産前年並み／製品に先行し原木価格上昇／原木の動きが良くなってきた

【②製品の荷動き（トドマツ）】

企業判断指数　　（**太字**は調査時点の現状認識、*斜体文字*は見通し）

調査時点	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3	2021.4-6	2021.7-9	2021.10-12
R2.9	**-82**	*-84*	*-74*	-	-	-
R2.12	-	**-67**	*-71*	*-58*	-	-
R3.3	-	-	**-37**	*-17*	*-5*	-
R3.6	-	-	-	**63**	*54*	*40*

原木消費量（「林産工場動態調査」より）　　(m3)

	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3	2021.4-6	2021.7-9	2021.10-12
当年	176,723	192,692	179,009	-	-	-
(前年)	212,330	221,166	181,768	186,163	176,723	192,692
対前年比	83%	87%	98%	-	-	-

（概況）
原木消費量は前年並み。7月以降もｳｯﾄﾞｼｮｯｸの影響による代替需要で製品荷動きは前年を上回る見通し

（回答企業の主なコメント）
新規問合せ増も対応に限界／製品全般で品薄／回復傾向／国産材への転換で受注増／品薄は年内続くが輸入材次第／単に輸入製材の入荷不足であり1月には状況変化／秋口以降受注落ち着く／荷動き活発化の見通し

【③原料在庫状況（カラマツ）】

企業判断指数　　（**太字**は調査時点の現状認識、*斜体文字*は見通し）

調査時点	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3	2021.4-6	2021.7-9	2021.10-12
R2.9	**18**	*9*	*-2*	-	-	-
R2.12	-	**-21**	*-21*	*-29*	-	-
R3.3	-	-	**-37**	*-49*	*-51*	-
R3.6	-	-	-	**-47**	*-58*	*-53*

原木在荷量（「林産工場動態調査」より）※月平均　　(m3)

	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3	2021.4-6	2021.7-9	2021.10-12
当年	280,015	229,930	242,162	-	-	-
(前年)	237,959	218,917	254,678	284,236	280,015	229,930
対前年比	118%	105%	95%	-	-	-

（概況）
原木在荷量は減少傾向。製品需要の増加により7月以降も前年を大きく下回る見通し

（回答企業の主なコメント）
入荷量減少／原木不足／素材生産は前年並み／現状は入荷順調／製品に先行し原木価格上昇／公売に期待／道産木材需要急増で不足／冬季に原木の積み増しができなかった影響／造材事業者減少で伐採少量

【④製品の荷動き（カラマツ）】

企業判断指数　　（**太字**は調査時点の現状認識、*斜体文字*は見通し）

調査時点	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3	2021.4-6	2021.7-9	2021.10-12
R2.9	**-87**	*-84*	*-64*	-	-	-
R2.12	-	**-65**	*-71*	*-51*	-	-
R3.3	-	-	**-20**	*10*	*10*	-
R3.6	-	-	-	**80**	*73*	*44*

原木消費量（「林産工場動態調査」より）　　(m3)

	2020.7-9	2020.10-12	2021.1-3	2021.4-6	2021.7-9	2021.10-12
当年	204,317	225,130	223,826	-	-	-
(前年)	276,138	259,279	227,922	205,643	204,317	225,130
対前年比	74%	87%	98%	-	-	-

（概況）
原木消費量は前年並み。産業用資材の回復や輸入材の代替需要等により，7月以降前年を大きく上回る見通し

（回答企業の主なコメント）
注文や新規問合せ増／ﾗﾐﾅはｺﾛﾅ禍前に回復／国産材転換で受注増／製品荷動きは活発化の見通し／需要増も先行き不透明／若干回復も一昨年前より鈍い／ﾊﾟﾚｯﾄ・梱包材回復／原木確保困難で生産増やせない

（水産林務部林務局林業木材課林業金融係）